

遺跡No	遺構種別	遺構No	時期	説明	グリッド	形態	主軸	長さ	幅	深さ	付属施設	出土遺物
60-029	竪穴住居跡	0036	7世紀末～8世紀初頭	D区中央部に位置し、第37・44号竪穴建物跡に切られ、第40号竪穴建物跡カマドと重複し、それより古いとみられる。床面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。壁溝は幅10～20cm、床面からの深さ5cmを測る。ピットは4基確認された。P1～P4は主柱穴で、床面からの深さ20～55cm、径50～70cmの円形掘方を持ち、柱痕跡から柱の太さは径15cm程度と推定される。南西壁付近に床面からの深さ20cmの床下土坑が確認されたが、その他カマド付近がわずかに掘り込まれるのを除き掘方はほとんど認められなかった。	D区	方形	N-18° -W	7.70	7.20	0.75	カマドは北西壁ほぼ中央に構築され、袖は粘土で造られる。燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から90cm張り出す。貯蔵穴はカマド左脇にあり、径1.2m、床面からの深さ40cm、遺物はこの周辺から特に多く出土した。編物石は建物跡南隅に比較的多くまとまっていた。	土師器坏・皿・高坏・甕・台付甕・甌・土器片錘・墨書坏・線刻坏・須恵器蓋・坏・盤・長頸瓶・甕、ロクロ土師器蓋、土錘、鎌、不明鉄製品、磨痕石、編物石
60-029	竪穴住居跡	0037	9世紀後半	D区中央部に位置し、第36・39～41号竪穴建物跡を切る。床面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-21° -W	5.90	4.40	0.50	カマドは北西壁ほぼ中央に構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅40cmで、煙道は壁から40cm張り出す。	土師器坏・墨書坏・甕、須恵器蓋・坏・皿・高台皿・高台坏・円面硯・長頸瓶・高台碗・壺・甕、灰釉陶器長頸瓶・瓶、土錘、鏢、編物石、刀子、鉄鍬、鋸、楔、棒状鉄製品、鉄釘、不明鉄製品、椀形滓、鉄滓、砥石
60-029	竪穴住居跡	0038	8世紀後半	D区中央部に位置し、第39号竪穴建物跡を切る。床面は中央がやや高く、壁は急角度で立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-23° -E	3.20	3.20	0.40	カマドは北西壁ほぼ中央に構築され、左脇がやや張り出す。袖は粘土で造られる。燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から30cm張り出す。	土師器坏・高坏、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土錘
60-029	竪穴住居跡	0039	7世紀末～8世紀初頭	D区中央部に位置し、第37・38号竪穴建物跡に切られる。床面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。壁溝は幅20cm、床面からの深さ5cmを測る。ピットは3基確認された。床面からの深さは、P1は40cm、P2は35cm、P3は20cmで、P1・P2は主柱穴である。堀方は認められなかった。	D区	方形	N-65° -E	7.80	7.80	0.50	カマドは北西壁ほぼ中央に構築され、袖は粘土で造られる。燃烧部は幅70cmで、煙道は壁から60cm張り出す。貯蔵穴はカマド右脇にあり、径1m、床面からの深さ30cmを測る。	土師器坏・皿・甕、須恵器蓋・瓶、土錘、延板状鉄製品、鉄釘、棒状鉄製品、編物石、磨痕石
60-029	竪穴住居跡	0040	9世紀前半	D区中央部に位置し、第36号竪穴建物跡より新しく、第37・41号竪穴建物跡に切られる。壁は斜めに立ち上がり、壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-66° -E	4.50	3.00	0.50	カマドは北東壁に構築され、その残骸のみ確認された。	土師器坏、須恵器坏
60-029	竪穴住居跡	0041	9世紀後半	D区中央部に位置し、第40・42号竪穴建物跡を切り、第37号竪穴建物跡に切られる。床面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-68° -E	3.70	—	0.50	カマドは北東壁に構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から1m張り出す。	土師器坏・甕、須恵器坏・皿・甕
60-029	竪穴住居跡	0042	9世紀前半	D区中央部に位置し、第41号竪穴建物跡に切られる。床面はやや凹凸がみられ、壁は南西壁においては特に斜めに立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-70° -E	3.80	3.10	0.70	カマドは北東壁南寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から1m張り出す。	土師器坏・甕・台付甕、須恵器蓋・坏・小壺・瓶・壺・甕、墨書坏、刀子、延板状鉄製品、編物石
60-029	竪穴住居跡	0043	8世紀後半	D区中央部に位置し、第45・60号竪穴建物跡を切り、第15号掘立柱建物跡と重複する。床面は中央がやや高く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。土層断面から、旧カマド右脇には棚状遺構があった可能性がある。	D区	方形	N-23° -W	4.70	3.50	0.50	カマドは新旧2基あり、新カマドは北西壁やや西寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅70cmで、煙道は壁から80cm張り出す。旧カマドは北東壁やや南寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅60cm、煙道は壁から80cm張り出す。	土師器坏・甕・台付甕、須恵器蓋・坏・高台坏・壺・長頸瓶・甕・瓶、円面硯・墨書坏、棒状鉄製品
60-029	竪穴住居跡	0044	8世紀後半	D区中央部に位置し、第36・45号竪穴建物跡を切る。床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。カマド右脇には、確認面からわずかに下がった棚状遺構が認められた。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-72° -E	3.80	3.30	0.55	カマドは北東壁南寄りに構築され、袖は粘土で造られる。燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から1.1m張り出す。	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・墨書坏・甕・瓶、土錘、刀子、砥石、土錘未製品
60-029	竪穴住居跡	0045	8世紀後半	D区中央部に位置し、第43・44号竪穴建物跡に切られ、第46号竪穴建物跡と重複する。床面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-25° -W	4.40	3.60	0.45	カマドは北西壁に構築される。	土師器坏・椀・甕、ロクロ土師器高台坏、須恵器蓋・坏・甕、棒状鉄製品

60-029	竪穴住居跡	0046	8世紀後半	D区中央部に位置し、第45号竪穴建物跡と重複する。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は幅20cm、床面からの深さ5cmを測る。ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-68° -E	2.10	2.10	0.40	—	土師器杯、須恵器杯、刀子、磨痕石
60-029	竪穴住居跡	0047	9世紀前半	D区中央部に位置し、第48号竪穴建物跡を切る。床面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。カマド右脇には、床面より15cm高い棚状遺構が確認された。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-66° -E	4.20	2.80	0.45	カマドは北東壁南寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅60cmで、煙道は壁から30cm張り出す。	土師器杯・皿・甕・台付甕、須恵器蓋・高台杯・小壺・甕・横瓶、刀子、石製紡錘車、磨痕石、編物石
60-029	竪穴住居跡	0048	8世紀後半	D区中央部に位置し、第43号竪穴建物跡に切られる。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは1基確認され、床面からの深さ10cmを測る。壁溝、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-63° -E	4.40	3.10	0.40	カマドは北壁南寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅60cmで、煙道は壁から70cm張り出す。	土師器杯・皿・甕、須恵器杯・墨書杯
60-029	竪穴住居跡	0049	9世紀前半	D区中央部に位置する。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は幅15cm、床面からの深さ5cmを測る。ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-60° -E	3.20	2.60	0.60	カマドは北東壁中央に構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から1.2m張り出す。	土師器杯・甕・台付甕、須恵器杯
60-029	竪穴住居跡	0050	8世紀後半	D区中央部に位置し、第15号掘立柱建物跡と重複する。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は幅5~15cm、床面からの深さ5cmで、ピットは4基確認された。P1は20cm、P2・3は10cm、P4は5cmである。	D区	方形	N-63° -E	3.70	3.70	0.40	カマドは北東壁に構築されるとみられ、崩落粘土が調査区壁際から確認された。	ミニチュア土器、土師器杯・皿、須恵器杯・甕
60-029	竪穴住居跡	0051	8世紀後半	D区中央部に位置し、第31号土坑に切られる。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-17° -W	4.70	4.70	0.45	—	土師器杯・高杯・甕・台付甕、須恵器蓋・杯・長頸瓶・甕、灰釉長頸瓶、土錘、刀子
60-029	竪穴住居跡	0052	9世紀前半	D区南部に位置し、第56号竪穴建物跡を切り、第32・33号土坑に切られる。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は幅15cm、床面からの深さ5cmを測る。床面からの深さ10cm程度の堀方が認められた。	D区	方形	N-67° -E	2.80	2.80	0.65	—	土師器杯・甕・把手、須恵器杯、土錘
60-029	竪穴住居跡	0053	8世紀後半	D区南部に位置し、第54号竪穴建物跡を切る。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は幅20cm、床面からの深さ10cmを測る。ピットは5基確認され、床面からの深さはP1は20cm、P2・3・5は10cm、P4は15cmである。南西部の床下は大きく掘り込まれ、床面から40cmの深さを測る。	D区	方形	N-60° -E	4.90	3.60	0.70	カマドは北東壁南寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅50cmで、底面中央に小ピットがみられ、煙道は壁から1.1m張り出す。	土師器杯・甕・台付甕、須恵器蓋・杯・円面硯・甕、土器片錘、刀子、鉄釘
60-029	竪穴住居跡	0054	8世紀前半	D区南部に位置し、第53号竪穴建物跡、第34号土坑に切られる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。極めて浅い壁溝がわずかに確認された。	D区	方形	N-18° -W	4.00	4.00	0.55	カマドは北西壁中央に構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅60cmで、煙道は壁から50cm張り出す。	土師器杯・甕、須恵器杯、鉄釘
60-029	竪穴住居跡	0055	9世紀前半	D区南部に位置し、第34号土坑に切られる。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは1基確認され、床面からの深さは35cmを測る。壁溝、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-29° -W	3.90	2.90	0.40	カマドは北西壁中央に構築され、燃烧部は幅50cmで、煙道は壁から1.1m張り出す。	土師器杯・台付甕、須恵器杯・高台杯・甕、土錘、刀子
60-029	竪穴住居跡	0056	8世紀後半	D区南部に位置し、第52号竪穴建物跡、第32・33号土坑に切られる。床面は凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝、ピット、堀方等は確認されなかった。	D区	方形	N-67° -E	3.00	3.00	0.70	—	土師器杯・把手、須恵器杯・墨書杯
60-029	竪穴住居跡	0057	—	D区南部に位置し、第58号竪穴建物跡を切る。床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。壁溝は幅20cm、床面からの深さ10cmを測る。	D区	方形	N-26° -W	3.00	3.00	0.50	—	—
60-029	竪穴住居跡	0058	—	D区南部に位置し、第57号竪穴建物跡に切られる。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は部分的で、幅20cm、床面からの深さ5cmを測る。	D区	方形	N-17° -W	—	—	0.45	—	—
60-029	竪穴住居跡	0059	8世紀後半	D区北部に位置し、第14号掘立柱建物跡を切り、第43号土坑に切られる。床面はやや凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。ピットは2基確認され、床面からの深さはP1は10cm、P2は5cmである。堀方はわずかで、壁溝は確認されなかった。	D区	方形	N-27° -W	4.50	2.90	0.40	カマドは北西壁東寄りに構築され、袖は粘質土で造られる。燃烧部は幅60cmで、煙道は壁から90cm張り出す。	土師器台付甕、須恵器杯

60-029	竪穴住居跡	0060	8世紀後半	D区中央部に位置し、第45号竪穴建物跡に切られ、第15号竪穴建物跡と重複する。	D区	方形	N-67° -E	—	—	0.20	カマドは北東壁に構築され、壁から50cm張り出す煙道部のみ確認された。	土師器甕、須恵器墨書坏
60-029	掘立柱建物	0014	—	D区北部に位置し、第59号竪穴建物跡に切られる。柱掘方は、径約60～80cmの円形を基本とし、P3は楕円形を呈する。柱痕跡が残り、柱の太さは径15～20cm程度と推定される。柱間間隔は桁行が1.8～2.1m、梁行が1.5～1.8mを測る。	D区	2間×2間の側柱建物	N-20° -W	3.60	3.30	0.70	—	—
60-029	掘立柱建物	0015	—	D区中央部に位置し、第43・50号竪穴建物跡と重複する。柱間間隔は桁行が1.8m、梁行が2.1mを測る。柱掘方は、径40～60cmの円形を呈する。	D区	3間×2間の側柱建物	N-57° -E	5.40	4.20	0.70	—	—
60-029	土坑	0031	—	D区中央部に位置し、第7世紀末～8世紀初頭号竪穴建物跡を切る。	D区	長方形	N-19° -E	4.10	0.90	0.55	—	—
60-029	土坑	0032	—	D区南部に位置し、第52・56号竪穴建物跡を切る。	D区	長方形	N-0° -	3.10	0.90	0.45	—	刀子
60-029	土坑	0033	—	D区南部に位置し、第52・56号竪穴建物跡を切る。	D区	—	N-12° -E	—	—	0.50	—	—
60-029	土坑	0034	—	D区南部に位置し、第55号竪穴建物跡を切る。	D区	長方形	N-13° -E	1.95	0.70	0.25	—	—
60-029	土坑	0035	—	D区中央部に位置する。	D区	円形	—	1.00	1.00	—	—	—
60-029	土坑	0036	—	D区北部に位置する。	D区	長方形	N-18° -E	3.80	0.85	0.30	—	—
60-029	土坑	0037	—	D区北部に位置する。	D区	—	—	—	—	0.45	—	—
60-029	土坑	0038	—	D区北部に位置し、第59号竪穴建物跡と重複する。	D区	長方形	N-82° -W	2.00	0.90	0.15	—	—
60-029	土坑	0039	—	D区北部に位置する。	D区	楕円形	N-81° -E	2.40	1.40	—	—	—
60-029	土坑	0040	—	D区中央部に位置する。	D区	方形	N-56° -E	0.90	0.90	0.30	—	—
60-029	土坑	0041	—	D区中央部に位置する。	D区	長方形	N-45° -W	1.20	0.90	0.35	—	土師器台付甕